

道徳科学習指導案

平成30年6月 第1学年 指導者 前原 聡

1 主題名 きまりの意義 内容項目C－(10)遵法精神、公德心

2 教材名 「人に迷惑をかけなければいいのか？」（出典：廣濟堂あかつき）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

「法やきまり」は、「私」と「私」の利益がぶつかり合う集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために人間の知恵が生み出したものである。社会の秩序と規律を守ることによって、個人の自由が保障されるという理解が大切である。無法状態では自由は保障されない。自分の欲望のままに生活することを制限するものとして法を捉えて仕方なく法に従うのではなく、上記の理解から積極的に法に従う姿勢が規律ある安定した社会の実現のために求められていることに気付かせ、進んで守ろうとする態度を育てたい。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は、これまでに「法やきまり」の意義や権利を大切に、義務を果たすことの意義について学んできている。しかしながら、入学して間もない時期である現在は、中学校の「ルールだから守る」と他律的に捉える生徒も少なくない。そこで、「法やきまり」を「尊重したいから守る」と自律的に捉えさせ、実践していこうとする態度を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、「僕」が通り抜けを禁止されている駐車場を通過してしまう途中でビンを割り、破片で車をパンクさせてしまうことから始まる。父親や友達と共に管理人の元へ謝罪に行く過程で、知らず知らずのうちに様々な人に迷惑をかけていたことを実感していくという内容である。

生徒は、「僕」の「人に迷惑をかけなければ何をやってもかまわない」という考え方に共感できるだろう。しかし、自分が考え得る範疇には限界があり、自分の予測を超えたところでも他者とつながっていることから、法やきまりは社会全体のことを考え設定されていることに気付かせたい。さらに、この公の視点を大切にすることにより、自律的にきまりを守る意識をもたせたい。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつために

- ・近隣駐車場の現状を写真で提示し、道徳的な問題を他人事ではなく自分事として考えさせる。

○中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために

- ・「僕」が迷惑をかけた人を確認する際に、どのような迷惑をかけたのかも確認することで、知らず知らずのうちに様々な人に迷惑をかけていたことに気付かせる。
- ・「僕」の考えに対して共感するか共感しないかを議論することで、「法やきまり」の意義について多面的・多角的に捉えさせる。
- ・「僕」が気付いたことは何かを考えさせることで教材への自我関与を促し、「法やきまり」を守ることは想定される範囲を超えた様々な人たちの権利を守ることであると気付かせる。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・本時における問題意識を確認するとともに自らの考えを表現させることで、「法やきまり」の遵守を日常生活の中で見直していこうとする態度を育てる。

5 本時の展開

(1) ねらい

「僕」の考えに対する意見を比較・検討するとともに「僕」が「わかった」ことは何かを考えることを通して、きまりの意義を理解し進んで守ろうとする態度を育てる。

(2) 準備

教師：ワークシート、駐車場の写真（拡大）

(3) 展開

学習活動と発問	時間	予想される生徒の反応	指導上の留意点
1 近隣駐車場の写真から、道徳的価値を想起する。	3分	・駐車場に入らせないためにコーンが並んでいる。	●実際の写真を提示することで、道徳的価値（遵法精神）を自分事として考えさせる。
きまりは何のためにあるのだろうか？			
2 資料を読んで話し合う。 ○結局、「僕」は誰に迷惑をかけたか。 ○「僕」は「人に迷惑をかけなければいい」と考えていました。これに共感しますか、しませんか。 個人（自分の考えを押さえる） →グループ（意見の交流・分類） →全体（意見の比較・検討） 【問い返し（◇）】 ◇「きまり」を破ったとしてもピンを割らずに戻せば誰も傷付けなかったのではないですか。	27分	・両親。 ・駐車場の持ち主。 ・共感します。誰も気付かないのならば、何をやってもいいと思います。 ・共感しません。「きまり」を守らないといつか人に迷惑をかけます。 ・質問ですが、今の議論と「きまり」とは関係ないのではないですか。 ・そもそも「きまり」を守れば人に迷惑をかけないのではないのでしょうか。	●教材を範読する前に、あらかじめ登場人物や考える場面を伝えておくことで、教材の内容の理解を促す。 ●「僕」の考えに対する意見を議論させることで、「きまり」の必要性についての多様な感じ方や考え方を引き出させる。なお、多面的・多角的に考えさせることが目的のため、それぞれの立場に優劣をつけない。 ●全体で意見を交流する前にグループでの交流の場を設けることで、全体で発言しやすい雰囲気をつくる。 ●大多数が「共感しない」場合、問い返すことで「きまり」を破ることが他の問題を引き起こすことに気付かせる。
◎「そして今朝、先生の言ったことが、初めてわかったような気がした。」とありますが、「僕」は何が分かったのでしょうか。 個人（自分の意見を押さえる） →グループ・全体（意見の交流）	10分	・きまりを守らないことが悪いということ。 ・きまりを守らないと、いずれは人に迷惑をかけるということ。 ・「先生」が、きまりを守らないと結果的に人に迷惑をかけてしまうことを教えてくれたこと。	●「僕」の考えを想像させることで、教材への自我関与を促すとともに、多様な感じ方や考え方を整理させる。 ●「僕」が学んだ「きまり」の意義について考えさせることで、規律ある社会が実現するためには「きまり」の遵守が不可欠であることを理解させる。
3 価値に対する思いや考えを振り返る。 ○「きまり」は何のためにあると考えますか。	10分	・きまりは人に迷惑をかけないためにある。 ・人に迷惑をかけないための大切な規則（お互いのルール）。	●初めに掲示した写真とともに本時における問題意識を振り返らせることで、日常生活でも「きまり」を守ろうとする意欲や態度につなげさせる。

(4) 評価の視点

- 「僕」の考えに対して共感するか、共感しないかを議論する場面で、きまりの意義について、多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- 身近なきまりに気付いたり本時の振り返りをしたりする場面で、きまりの意義について、自分自身との関わりの中で深めているか。

指導例：主題名 「きまり」の意義 C-(10) 遵法精神・公德心

教材名 『人に迷惑をかけなければいいのか?』（廣済堂あかつき）第1学年

ねらい：「僕」の考えに対する意見を比較・検討するとともに「僕」が「わかった」ことは何かを考えるを通して、きまりの意義を理解し進んで守ろうとする態度を育てる。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇問い返し）

指導のポイント

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

T：駐車場の周りにコーンがあります。それは、何のためにあるか分かりますか。
S：入っちゃだめという意味。
S：私、通っていたかもしれない…。
T：なぜ私たちの身の回りには「きまり」があるのでしょうか。今日は、このことについて考えていきます。



きまりは何のためにあるのだろうか。

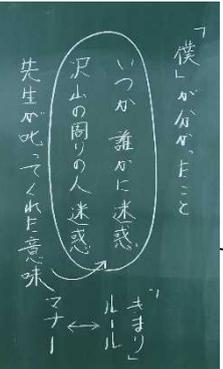
問題意識

- 近隣駐車場の写真を提示し、身近にも「きまり」があることに気付かせる。
- 「きまり」を実際に守ることができているかどうか考えさせることで、問題に対する切実感をもたせる。

展開

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

○「僕」は「人に迷惑をかけなければいい」と考えていました。これに共感しますか、しませんか。
T：共感する人から意見をどうぞ。
S：なぜ共感するのかというと私がそうだからです。
◇「そう」について、詳しくお願いします。何が「僕」と同じなのですか。
S：人に迷惑をかけていないのに何でわざわざ面倒な方にしなければならないのか、便利な方に進まないのかということが私には分かりません。
S：（みんなそうだったら）国が危うくなりませんか。
T：共感しない人で意見が言える人はいますか。
S：ルールは守らないといつ人に迷惑をかけているか分かりません。でも、例えば教科書を必ず持ってくるというルールは、忘れても他の人には迷惑をかけません。自分だけが不利益を被ります。それだけは「僕」に共感できます。
○双方に反論か、もしくは質問がありますか。
S：共感する人が先程からルールとか言っているけれども、ここでは人に迷惑をかけるかどうかということなので、ルールとかきまりとかは関係ないと思います。
S：「僕」はルールを破って迷惑をかけているのだから、関係があると思います。
S：もう少し分かりやすく教えてください。
S：だから、ルールを守っていれば人に迷惑をかけるのではないかとということです。



発問を構成する際には

- 初めに二つの立場のうちどちらかを選択させることで、一人一人の感じ方や考え方を生かした議論が可能になる。

協働や対話の場

- ペアやグループでの意見交流を取り入れることで、全体での比較・検討の際の発言を促すことができるようにする。
- 共感する生徒の意見、共感しない生徒の意見と順に述べさせ整理して黒板していく。その後、反論や質問を受け付けることで意見を比較・検討させていく。
- 「きまり」の必要性について多面的・多角的に考えさせることが目的のため、意見を比較・検討する場面では、二者の優劣をつけない。

中心発問

- 「僕」の考えを想像することを通して、「きまり」を守ることによって規律ある社会が実現していくことを理解させる。

終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○「きまり」は何のためにあると考えますか。
S：きまりは人と人とのルールで、人に迷惑をかけるための大切な規則です。
S：日本の社会が成り立たなくなるのを防ぐためです。
S：きまりは、人が正しく生きるためにあります。
○今日の授業を自由に振り返りましょう。
S：人間は誰かに迷惑をかけてしまうものだから、「きまり」を守ってできるだけ人に迷惑をかけるないようにしようと思いました。

振り返り

- 様々な意見を比較・検討させることで、身近な問題から広げ、人間の生き方などへと深めさせる。

評価の視点

- ・「僕」の考えに対して共感するか、共感しないかを議論する場面で、きまりの意義について、多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・身近なきまりに気付いたり本時の振り返りをしたりする場面で、きまりの意義について、自分自身との関わりの中で深めているか。